

こんにちは。

早いもので三学期もあと二週間で終わり、留學生活も残すところあと三か月となりました。今回は日本の高校生とオーストラリアの高校生の時間の使い方の違いについて改めて考えてみました。

まずは休み時間ですが、オーストラリアでは 11 時から 40 分間の first break、12 時 45 分から 30 分の second break があります。休み時間中は建物内に入ることができないため地面に座って外で過ごします。教室が使えないので勉強をしている人はほぼおらず、友達との会話、ハンドボールやバレーボールなどのスポーツが主な過ごし方です。ハンドボールは小さなボールをバウンドさせて戦う、地面で行う卓球のようなゲームで、男女問わず多くの生徒が遊んでいます。ランチはお弁当の文化はなく、サンドイッチ、スナック菓子、デザートにりんご丸一個など軽食が主流です。購買には毎日多くの生徒が並んでいて、飲み物のほかフィッシュアンドチップスやミートパイなどの食事を約 4~5 ドルで買うことができます。授業の約 3 分前にそれぞれの教室へ向かいます。

学校は 2 時 25 分に終わり、帰りの HR はありません。日本のような部活動はないため、人によって過ごし方は様々です。家にまっすぐ帰る人が多く、習い事をしている人もいます（私の周りでは演劇を習っている子が多いです）。中には友達と校庭でスポーツをしたり、食べ物を買ったりしている人もいます。私は学校のベンチで一時間ほど友達と話したり、バレーボールをしたりして過ごします。チューター制度もあるため宿題でわからないところを教えてもらうことも可能です。日が暮れてからは外に出ている人はほとんどおらず、多くのお店が五時には閉まります。

個人的にオーストラリアの学生は時間の使い方に対して自由な幅が広いなと感じます。日本のような部活が存在せず（部活の話友達にすると「アニメでみたことある！」とよく言われます）行事もほぼなく、自分のクラスのメンバーで何か活動をすることもほぼありません。しかしその分授業は自分の興味のある教科を学ぶことができ（教科ごとに行事があることもあります）、高校卒業後に働く生徒のための職業訓練なども充実しています。また申し込めば演劇、サッカー、吹奏楽などの活動に参加することもできます。“機会はあるけどやるかどうかは自由、自分の学びたいことを学ぶ”というスタンスなのだと思います。一方で日本の学生は学校に時間も行事ごとにも集まっていて大変ですがやりがいのある学校生活でもあると思います。私はどちらのスタンスも好きです。海外の現地校で学ぶ面白さの一つはこうして海外の学生のリアルな生活を日本と比較できることだなと感じます。

白鷗高校 12 期生 次世代 8 期生 O.O